

令和2年1月24日
国土交通省 東北地方整備局

重点「道の駅」東北で新たに2ヶ所選定

～地方創生の核となる「道の駅」を重点的に応援します～

「道の駅」は、地方創生を具体的に実現していくための極めて有力な手段であり、国土交通省では、関係機関と連携して、地方創生の核となる特に優れた企画を選定し、重点的に応援する重点「道の駅」の取組を平成26年度から実施しています。

令和元年度は、地方創生や地域活性化の拠点の形成等を目指した「道の駅」の新たな設置、又はリニューアル等の企画提案を募集し、全国で30件の応募があり、重点「道の駅」が15箇所、重点「道の駅」候補が15箇所選定されました。

東北地方整備局管内では(仮称)おながわと(仮称)ふくしまが重点「道の駅」に選定されました。

【重点道の駅(東北)】

駅名	都道府県	設置者	路線	新設/既設	設置年度	種別
(仮称) おながわ	宮城県	女川町	国道398号	新設	令和2年度	単独型
(仮称) ふくしま	福島県	福島市	主要地方道 上名倉・ 飯坂・伊達線	新設	令和4年 (予定)	一体型

全国版(本省版)はこちら

http://www.mlit.go.jp/report/press/road01_hh_001277.html

〈発表記者会：青森県政記者会、岩手県政記者クラブ、宮城県政記者会、秋田県政記者会、山形県政記者クラブ、福島県政記者クラブ、東北電力記者会、東北専門記者会〉

問合せ先

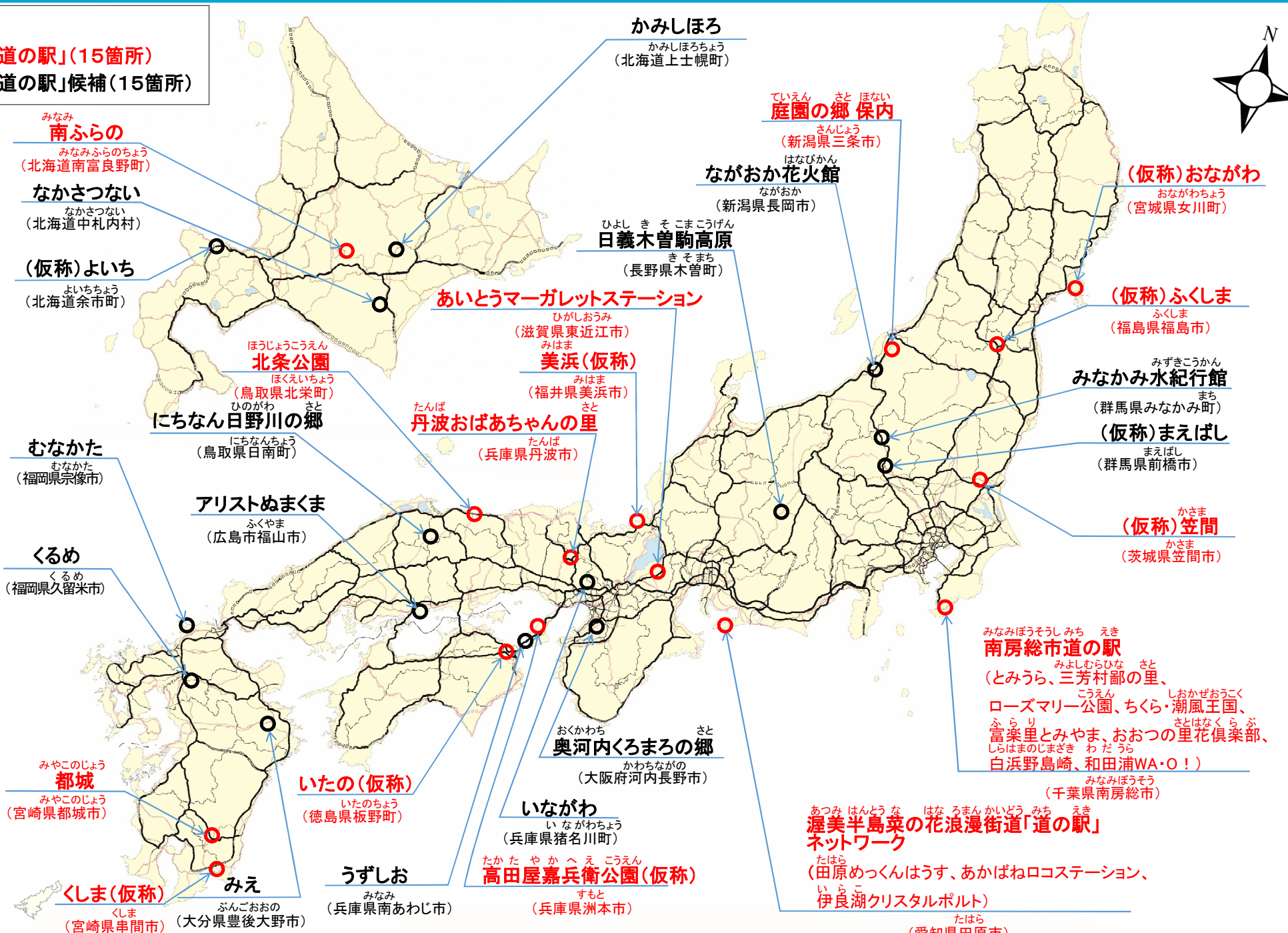
国土交通省 東北地方整備局 TEL 022-225-2171 (代表)

道路部道路計画第一課長 ふなみ しょういち
舟波 昭一 (内線4211)道路部交通対策課長 おやま しげる
小山 茂 (内線4511)

令和元年度 重点「道の駅」選定結果

凡例

- 重点「道の駅」(15箇所)
- 重点「道の駅」候補(15箇所)



道の駅「(仮称)おながわ」(宮城県女川町) 企画概要 <新設>

- JR女川駅を中心にコンパクトな市街地を形成し、JR、国道398号、レンガみち等の交通結節点である女川駅前商業エリアを公民連携による運営体制の「道の駅」として、人の流れを集約化し回遊性を高める
- 地域観光・震災復興・地域交流の拠点化を図り、交通案内、インバウンド誘客推進、レンタサイクル、震災復興の歩みの伝承、子育て世代への環境整備等により、一体的なサービス提供を行う
- スマートモビリティ活用と充電インフラ整備の両面から地域課題解決と持続可能な低炭素社会構築を推進

駅名	都道府県	設置者	路線	新設/既設	設置年度	種別
(仮称)おながわ	宮城県	女川町	国道398号	新設	令和2年度	単独型



「道の駅おながわ」※全て町有地
公民連携による運営により「地域観光・震災復興・地域交流の拠点化」を図る

道の駅おながわ運営協議会

- ◇シーパルピア女川: 商業施設 (運営: 女川みらい創造(株))
- ◇地元市場ハマテラス: 観光物産施設 (運営: 女川みらい創造(株))
- ◇女川町まちなか交流館: 交流施設 (所有者: 女川町 (指定管理者: 女川町商工会))
- ◇たびの情報館ぷらっと: 観光案内所 (運営: (一社)女川町観光協会)

<道路空間活用例>
町民と利用者の交流



太鼓イベント



結婚式

<提案の先駆性・ポイント>

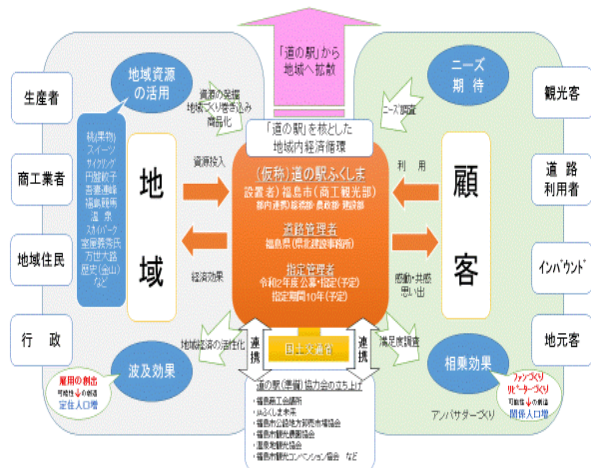
- JR、国道、レンガみち(歩行者道)、バス、離島航路の交通結節点にあり、人の流れを集約し、回遊性を高める
- 公民連携による運営体制を構築し、民間活力を最大限に活かし、地域観光・震災復興・地域交流の拠点化を図る
- スマートモビリティの活用と充電インフラ整備の両面から持続可能な低炭素社会の構築を推進

<実施内容>

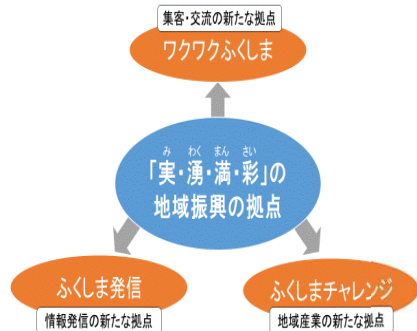
- 道路休憩機能と多様な交通手段の休憩機能に加え、地域観光、震災復興発信、地域交流の多彩な機能の拠点化を図る。
- 道の駅・バス・鉄道利用者等への案内、インバウンド誘客、レンタサイクル、空間活用によるイベント展開による地域観光と地域交流の拠点化
- 復興のあゆみ展や震災遺構による震災復興発信の拠点化
- スマートモビリティ社会システム実証プロジェクトに加え、電気自動車プラグインハイブリッド自動車の充電インフラ整備を実施

道の駅「(仮称)ふくしま」(福島県福島市) 企画概要 <新設>

- 「高速交通網の結節点」という地の利を活かし、東日本大震災・原子力災害からの復興の象徴として、人口減少社会に対する持続可能な地域づくりのため、道の駅を『実・湧・満・彩』の地域振興の拠点として位置付け、「集客・交流の新たな拠点」「情報発信の新たな拠点」「地域産業の新たな拠点」の3つの柱とする。
- 道の駅敷地内に快適で「木質感溢れる(CLT活用)屋内こども遊び場」や24時間利用可能な授乳コーナー、おむつ交換スペースを整備し、地域の子育て世代を応援するとともに、子ども連れの道路利用者への休憩機能を補完する。
- 平成30年に実施した「東北中央道と『道の駅』の活用による地域活性化社会実験」結果を踏まえ、レンタサイクル(電動アシスト自転車)を整備し、通称「フルーツライン」周辺の果樹畑の景観や日本風景街道登録ルート等の地域資源を活用したサイクルツーリズムを展開する。



駅名	都道府県	設置者	路線	新設/既設	設置年度	種別
(仮称)ふくしま	福島県	福島市	主要地方道上名倉・いわさか飯坂・伊達線	新設	令和4年(予定)	一体型



サイクルツーリズムの展開(イメージ)

<提案の先駆性・ポイント>

- 東北自動車道と東北中央自動車道の結節点という特徴から、道路休憩機能を整備するとともに、『実・湧・満・彩』の地域振興の拠点として、地域産品等の紹介・提供等により集客・交流を生み出しながら、「道の駅」をゲートウェイとして、来場者を積極的に地域に送り出すことにより、持続可能な地域づくりを目指す。
- 道の駅建物本体とは別に「屋内こども遊び場」を約500㎡の別棟として、天候等に左右されることなく通年で遊べる場所を整備。子どもの健全な成長を支援し、地域の子育て世代を応援するとともに、子ども連れの道路利用者への休憩機能を補完する。
- 東日本大震災の経験を踏まえ、道の駅敷地内に防災備蓄倉庫や40tの飲料水が貯水可能な耐震性地下貯水槽、太陽光を活用した電気供給設備を整備し、防災拠点機能を持たせることで、平時より災害に備える。

<実施内容>

- 道の駅に整備する飲食・物販施設に、市内事業者等のアンテナショップの機能を持たせるとともに、新商品のテストマーケティングの場としても位置づけ、新たなムーブメントが湧き起こる地域産業の新たな拠点
- レンタサイクル(電動アシスト自転車)の整備、地域資源等を活用したサイクルツーリズムの展開、サイクリスト等への快適性提供のためのシャワールーム整備、観光コンシェルジュ等によるサイクリングモデルコース等の案内
- 観光コンシェルジュ等による旬な果物狩り情報や地域観光情報の紹介、インバウンド対応
- 屋内こども遊び場、授乳室、オムツコーナー、屋根付き思いやり駐車スペース等の整備
- EV充電設備、ドッグラン、多目的広場などの道路休憩機能の整備
- 防災備蓄倉庫、40tの飲料水が貯水可能な耐震性地下貯水槽、太陽光発電等の整備